

第7回大田市学校のあり方に関する計画等検討委員会 会議録

日 時	令和6年4月26日（金） 10:00～12:00		
場 所	大田市役所 4階大講堂		
出席者	委 員：14名／17名 （欠席委員：笠井修委員、岩倉義光委員、神田真哉委員） 事務局：武田教育長、森教育部長、縄総務課長、 刈橋総務課長補佐、清水学校施設係長、 井上学校再編係主任、清水学校再編係副主任、 俵学校教育課長、山根学事・魅力化推進室長		
傍聴人	14名	報道機関	2社
次 第	別紙のとおり		
概 要	以下のとおり		
附 記	本委員会は原則公開		
<p>1. 開会（進行：刈橋課長補佐） 委員の半数以上の出席（3名欠席）を確認後、本委員会の成立を報告 （検討委員会設置要綱第6条第2項による）</p> <p>2. 加藤委員長挨拶 新たな年度を迎え、初めての検討委員会となる。委員の交代もあり、新たな体制でこの検討委員会を進めていくこととなるのでよろしくようお願い申し上げます。 昨年度は6回の検討委員会を開催し、「大田小学校の整備」、「五十猛小学校、静間小学校、鳥井小学校の統合」について、その方針や方向性について確認することができた。また、魅力ある学校づくりや、子どもたちに身に付けさせたい力など、多岐にわたって議論も深められた。その一方で、これから検討を始める地域や学校もあることから、委員の皆様の積極的な発言をお願いする。</p> <p>3. 第6回会議の議事録の確認（進行：加藤委員長） 指摘なし</p> <p>4. 議事 （1）三瓶地区の学校のあり方について（説明：縄課長）</p>			
議事に係る質疑応答			
発言者	内 容		
委員長	特段意見がないようなので、三瓶地区の学校のあり方について実施計画に記載することを検討委員会として了承してよろしいか。		
委員	（はい）		
委員長	それでは、この場で了承したとする。		
（2）第三中学校について（説明：縄課長）			
議事に係る質疑応答			
発言者	内 容		
委員長	特段意見がないようなので、第三中学校について実施計画に記載することを検討委員会として了承してよろしいか。		
委員	（はい）		
委員長	それでは、この場で了承したとする。		

(3) 高山小学校・大森小学校について (説明：縄課長)	
議事に係る質疑応答	
発言者	内 容
委員	<p>2校は特徴ある教育をしているので、この地域に小学校があることは重要だと考えている。中学校の統合で空き校舎となる第三中学校に小学校が入ることだが、施設の活用という視点では有効だとしても、大森小学校の特徴や規模ということを考えるとそれで本当にいいのかと思ってしまう。</p> <p>また、高山小学校は築33年にもかかわらず維持管理が適切にできていなかったことから雨漏りが起こっている。もし統合時期がずれた場合はそのまま補修せずに使用していくのか等、施設マネジメントも含めながら考えていかないといけない。一定程度の規模の施設を維持することが財政的にきびしい中、小学校としての規模や特徴的な学びをしていくためにどのような機能を持たせ、どのような教育を行っていくのかを考えていく必要があると思っている。</p> <p>反対に、第三中学校の校舎を学校としてではなく、地域の特徴を生かすような新たな用途として活用するという考え方はないのか。長い目で見れば、今の児童数の規模であれば、大森あるいは高山の特徴を生かすようなものに変えたほうが、規模が小さく、費用も抑えられるのではないだろうか。</p>
縄課長	<p>公共施設に関するマネジメントができていなかったことは反省点であり、鉄筋コンクリート造であれば適切に管理を行えば60年は持つといわれている中でこのような状態になってしまった。もし今の校舎を将来的に維持していくことになった場合、大規模な修繕を行わなければいけず、このままでは難しいと感じている。</p> <p>今後の統合を見据えたときにその間は雨漏りの補修などを行い、適切に管理していくことになる。しかし抜本的な解決になっていないことから、より良い状態の校舎に移していくことが施設の有効利用という観点から必要と判断した。</p> <p>事務局としては、子どもによりよい環境で学習してもらいたいと考えている。</p>
委員長	高山ブロックならではの教育について何か考えていることはあるか。
縄課長	高山ブロックには大森を代表とする世界遺産や大江高山など資源をたくさん有している。ただ、教育の大前提として学習指導要領に則り、どの学校でも適切に身に付けていくべき力というのを学習していく必要がある。そのうえで歴史的資源、自然資源、日本遺産などを活用しながらふろさと教育として織り込んでいけるのではと考えている。
委員	<p>回答いただいた中で考え方を改善してもらいたいところがある。施設の管理については耐用年数が何年という考え方はなく、基本的には100年経っても使い続けることを考えて長寿命化計画や適切な予防保全を行っていく必要がある。大森にも100年を超える建物がたくさんある中で、鉄筋コンクリートは60年で使えなくなるというのは違う考え方だと思っている。</p> <p>指導要領に基づく教育を必ず行わないといけないというのはわかるが、箱としての学校ではなく、学ぶ環境として大森などにある特徴的な建物を活用し、特色ある学習を行うことはできないか。</p>
縄課長	第三中学校が第一中学校と統合すると第三中学校の建物は使われなくなる。その状況で、第三中学校、高山小学校、大森小学校のどの建物が適切か考えたとき、最も校舎の状態が良い第三中学校を小学校仕様に改修して活用することが、今後を見据えたうえで適切だと判断した。中学校仕様の建物であり、規模も将来の子どもの数に比べて大きいかもしれないが、公共施設の有効利用の観点からみて第三中学校を使用していくことが適切だと考えている。校舎は30年近く経っているが、適切に管理していけばまだまだ

	<p>使用できるので、有効に活用しながら建て替えの時期が来れば児童数に合った規模に建て替えていく、また、その時の児童数によっては統合後においても維持が困難である可能性がある為、その際にはまた別の学校との統合を検討していくというのが事務局の考え方である。</p> <p>施設を使いながら特色ある学習ができないかという意見については、高山ブロックには資源がたくさんあるので、こうした施設や資源を使いながら、その場で体験型の学習を行うなど学校の中に取り込んでいけるのではないかと考えている。</p>
森部長	<p>特色というキーワードをどういう位置づけにするのかということだが、義務教育として学習できる環境があって、そのうえで特色ある学習ができる。現状では子どもの数が減っていること、施設の老朽化が進んでいること、そして教員の未配置という問題を抱えている。適正な教員が配置できて初めて学びの環境というのができることから、まずは基盤となる環境をいち早く作ることが一番だと考えている。</p>
俵課長	<p>小・中学校の教員の配置状況について報告すると、4月当初から未配置の小学校が1校ある。また、本来常勤講師を配置するところに非常勤講師が配置されている学校が中学校3校、小学校5校ある。</p> <p>常勤講師はフルタイムで担任を持ちながら公務ができるが、非常勤講師は短時間の勤務で主に授業の教師を受け持つ教員となる。例えば、担任に非常勤講師が充てられると午後からは違う教員がカバーしないといけないという状況が発生する。</p> <p>その他にも年度途中で教員が不足した場合、教員にゆとりがないときには教頭が担任をしている学校もある。</p>
委員長	<p>教員未配置の問題については前回までの検討委員会でも話題に挙がったが、学校再編と教員の未配置がどう関係するのか今一度説明をしていただきたい。</p>
森部長	<p>教員の配置というのは県で行っているが、教員の数が限られている中で校長、教頭、クラス担任などをそれぞれ学校に配置しなければならない。したがって、学校の数が集約される、例えば五十猛小学校、静間小学校、鳥井小学校の3校を1校に統合すると、校長、教頭だけでも6名から2名に減り、数字上は4名を違う場所へ配置することができる。</p> <p>今できることとしては、まずは教員の採用を県でしっかり取り組んでもらうことだが、この問題は島根県だけではなく全国的な問題であり、すぐに解決できるものではない。子どもの数に応じた学校数にしていくことが教員を適正に配置できる一つの方策であると考えている。</p>
委員長	<p>事務局としては高山ブロックで小学校を1校は残したいが、2校残すことは難しいため、1校残す場合の考え方を提案されている。</p> <p>また、委員からは地域の資源を積極的に活用した取り組みができないかという話も出たが、その他の委員の方からもなにか意見があればと思うがいかがか。</p>
委員	<p>学校の機能、建物の活用、地域としての学びの場をどうしていくのかというのがリンクしていると思う。先ほど話があったように、まず安心して学べる環境が基盤としてあることが重要ということは非常によくわかる。しかし、それぞれの地域の特色もあるので、今の第三中学校を使ってできることできないことを同じテーブルに乗せて、地域でどう考えるのかの議論を並行して進めてほしい。</p> <p>高山大森に限ったことではなく他の地域も全て共通だと思うが、「しっかりとした議論を保護者や地域でしっかり検討していきますよ」というメッセージを伝えてほしい。</p>
委員長	<p>大田市全体で協議を重ねてきたということだが、その中で保護者や地域からの声とし</p>

	て報告できるものはあるか。
縄課長	<p>高山ブロックの各地区に何度か出かけた中で、地域に根ざした学校作りを進めてきているので学校をできれば残してほしいという意見をいただいた。</p> <p>保護者の意見としては、同じ性別の同級生がいない状態で6年間通うことへの不安や、大人数での集団で競争させたいという意見、反対に小規模でも学ばせたいという意見が出た。</p> <p>地域の意見としては、学校がなくなることへの寂しさや地域の衰退を招くのではないかという反対の声がある一方で、子どものことを考えて一定程度集約をして、一定程度の人数のいる学校で学ばせてあげたいという意見も聞いている。</p> <p>どの声が強いつい意見というのは申し上げにくいですが、年代によって考え方の違いが出てきている。</p>
委員長	P T Aとして新しく委員となられた方で何か意見はないか。
委員	<p>保護者としては、たくさんの子どもがいる学校に通わせたいと思っている。放課後や休日に学校に行っても誰もいない、遊ぶ相手がいないので家でゲームをするしかないという流れになってしまっている。</p> <p>また、子どもが少ないと競争力が育ちにくいと聞くことがある。スポーツが得意な子や勉強が得意な子がいても周りによりすごい子がいると更に頑張ろうと思って努力をする、そういった競争心は小さい学校では育ちにくいのかなと感じている。</p> <p>一方で、小学校を中心に地域があるということも感じているので、すごく難しい問題だと思った。</p>
委員	<p>統合するにも改修費がどれくらいかかるのかわからないと「だろつ話」にしかならないので、数字を出してもらいたい。</p> <p>また、適正規模の考え方が見えにくく、人数が多いほうがいいという人もいるが、多いが故に学校に行きにくい人もいるので、そのバランスを考えていかないといけないと感じた。個人的な意見として、小さい統合ではなく抜本的な統合をしていかないと、大田市の抱えている公共施設適正化が追いついていかないとつ思うので、小中一貫校などに切り替えていく時期なのかなと感じた。</p> <p>また、学校統合については、学校がなくなると地域が衰退するという考えは私は持っておらず、地域に子どもはいるので地域力でカバーしていけばいいと考えている。</p>
委員	<p>事務局が出している素案をベースに話をされていると思うが、あくまでそれは素案であつて、それ以外の案があつてもいいという話を以前聞いた記憶がある。なので、たたき台として素案があつてもいいとは思つうが、いろいろな可能性を探っていきたいと個人的には思っている。特に大森地区の魅力的な教育であつたり、三瓶地区であつたり、大田市の教育の魅力として挙げられる地区について何か深掘りできたらと考えている。</p> <p>また、適正な規模という話があるが、大小規模の違つう小学校があり、子どもが行きたい学校をその中から選択できる、私としては魅力ある学校を作つてそう思える学校に通えるようになればいいなと思つている。</p>
委員	先ほど事務局から統合に関する意見の話があつたが、どの地区で、どのような方から、どのような意見があつたのかを具体的に示してもらいたい。
縄課長	手元に資料がないので、地域からの意見や市民フォーラムでの意見などを次回資料として示したい。
委員長	大森小学校の校舎は築68年を経過して雨漏りも発生しているが、他の施設に比べて長持ちしているという印象がある。木造が要因かどうかは専門外でわからないが、今後の学校建設時には木を使った建設を検討していただきたい。それが町の特色になるかも

	しれないし、子供たちにとっても良い環境になるかもしれないと思い確認した。
	(4)「第一中学校」及び「第一中学校区の小学校」について（説明：縄課長） (5)「第二中学校」及び「第二中学校区の小学校」について（説明：縄課長）
議事に係る質疑応答	
発信者	内 容
委員	<p>ある程度の人数がいることは望ましいと思うが、子どもたちが愛着を感じられる環境というのが大事だと思っている。ある程度の人数がいるといろんな価値観に触れるチャンスができるので、400名を超える生徒がいることで生まれる学びの環境というのはとても有益なものがあると感じている。ただ、小さな学校は地域からの愛情をたくさん受けているので、小さな学校にもメリットがある。</p> <p>ただ一番気になっているのは、校区外から来る生徒が多い中で、保護者の都合で生徒が朝早く学校に行かざるを得なくなっていることである。子どもたちの1日がとても長く、寝る時間が削られていくという生活リズムの中で、どうやって子どもたちが安心安全に学校に通っていけるのかということが一番心配である。</p> <p>また、学校現場にとって教員が足りないというのは喫緊な課題であり、子どもたちの学ぶ環境を支えていくうえでは重要な問題である。</p>
委員	第一中学校と第二中学校の統合の狙いがよくわからない。再編の良さをどのように考えているのか。
森部長	<p>今の第一中学校や第二中学校の人数を維持しようと思うと、第一中学校と第二中学校の統合というのは一つの考え方としてあり得ると考えている。</p> <p>また、財政面からみても新しい学校を2つ建てるよりも1つの方がスケールメリットがあるので、大田市の規模であれば検討は必要だと思う。</p> <p>ただ、これは一つの考え方であり、この統合を絶対進めないといけなというわけではないが、総合的に考えるとこの案が現実的ではないとはいき切れないと考えている。</p>
委員長	委員から事前に意見をいただいているということなので、事務局から紹介してもらいたい。
縄課長	<p>委員からいただいた意見を紹介させてもらう。</p> <p>素案1の第一中学校と第二中学校の統合について、生徒数や校区の広さに関してはわりはないと思うが、最も生徒数が多い大田町から自転車通学することを考えると、今の道路状況からすると危険である。また、校区が広くなることで様々な場所から通学バスを出すということを考えると課題が多い。加えて歩道なども整備していく必要があるので検討に当たっては慎重に進める必要がある。</p> <p>素案2の第一中学校と第三中学校の統合について、現在の流れからするとスムーズに進むのではないかと。</p> <p>素案3の第一中学校、志学中学校、北三瓶中学校の統合について、人数的なことであれば地域と協議をして統合することには賛成だが、長久小学校を第二中学校区にすることについては、これまでの歴史的なことや久屋小学校、川合小学校との宿泊研修や修学旅行などの学校間交流を考えると、地域も含めて反対が多いのではないかと。通学のことも考慮すると、第一中学校区ということでは考えるべきではないかと。</p> <p>素案1、2の第一中学校区の小学校について、長久小学校が2学級以上あるときは単独、単式学級になった場合は大田小学校と統合ということに関してはよいのではないかと。</p> <p>素案2の第二中学校区の小学校について、中1ギャップに対応ができるということ、また、9年間の学びが系統立ててできることから、これがいいのではないかと。</p> <p>以上の意見をいただいた。</p>

委員	<p>資料を見ると大田市が保有している小・中学校の床面積が生徒数の割合よりも遥かに大きいと感じた。基本的な講義を受けるだけの教室であれば十分な広さであり、ここから費用を考慮したときに今後維持していく学校の床面積をどのように考えていくか、また、通学時間が長くなることについてどのように対応していくのかという視点が出てくる。そういったことを踏まえて、生徒が希望して学びに行けるような視点との兼ね合いを考えていく必要があると感じた。</p>
縄課長	<p>子どもの数によって校舎の大きさが自由に変更できればいいが、一つの校舎を整備するにも時間や費用などいろいろな整理が必要である。公共施設を減らすという観点から考えると、例えば二つの学校を統合すれば、当然一つの学校は使わないので施設の減ということになる。</p> <p>一方で、施設の有効活用を図りながら建て替えの時期や再整備の時期がきたとき、あるいは統合をさらに見直していく必要が出たときには、改めてその適正な規模の学校を作っていく、そこに必要な機能を入れていくことになる。これは統合してすぐに違う適正規模の校舎を作るということにはなりにくいので、時間をかけて整理していく必要があると思っている。</p>
委員	<p>合併するから時間かかるというのは当然そうだが、私としては施設マネジメントができていないのではないかと考えている。面積が大きければ大きいほど維持管理費がかかって費用的に手が回らない状態になるのであれば、合併・統合・再編の時にあわせて考えておいたほうがいい。時間は確かにかかるが、そういった部分を踏まえて、教育に直接関わっていない保護者等の目から見て適正かどうかを判断してもらうことが大事だと思う。</p> <p>施設管理の面でいくと、抜本的に考えていかないと20年後に教育ができる状態かという気はしている。</p>
縄課長	<p>小学校、中学校の再編をどういう形で進めていくかというところを今議論していて、最初の段階でお示しした素案というのは、こういうふう将来的には学校を設置するので、それに合わせて何年ぐらいに統合し、校舎を何年ぐらい整備しますという25年ぐらいのスパンのものを示している。ある程度の統合再編案ができれば、長期的なスパンでのマネジメントを含めた大きな考え方は立てられるとは思いますが、今ある学校を全て残していくというようなマネジメントというのはなかなか難しいので、これを一定程度整理するというのを先に考えていかないといけないと考えている。</p> <p>要するに、統合パターンというのをまずは出して、そこに拠点となる学校があって、それをどのように今後維持をし、またどの段階でそれを建て替えるのかといったようなものを作っていく一歩だろうと考えている。</p>
委員	<p>そのシナリオを作ることができればいろんなパターンがあると思うが、そのシナリオは学校数だけを見ていて、適正な面積や機能という視点ではない。</p> <p>今回の統合の話は、保護者や地域からの意見を踏まえた上で、大田市として教育に費用を投入できる適正な規模なのかということが大前提にあると思う。</p> <p>国が考える基準のままでは大田市はやっていけないので、そういった部分を踏まえて統合・再編を考えていくことが必要である。</p>
森部長	<p>色々なアプローチの仕方はあると思うが、今の子どもの数ではいけないだろうというのは皆さんもご承知のとおりだと思う。そのときに地域の意見を聞いて地域の意見に寄り添う形で話を進めていく。例えば1人でも生徒がいれば学校を残してほしいという方がおられた場合、議論が前に進まなくなる可能性があるし、本当に学校を残すことがその子の成長のためになるのかということを考えていかないといけない。</p>

	<p>これから人数が少なくなったときにどうしていくべきか検討するときに、参考として面積も必要ということはあるかもしれないが、まずは子どもたちをよりよい学びの環境に置かせてあげるにはどうすればいいかという議論をしてもらいたい。</p>
委員	<p>地域の意見を聞いたら物事が決まらないというのは賛成しかねる。</p> <p>委員になってからたくさんの資料をもらったが、これを2、3回聞いたからと言ってすぐ飲み込めるようなものではない。この会議に参加して皆さんの意見を聞きながら、いろいろな視点に気づかされ、その声を受け止めなければいけないのだということを少しずつ理解してきている。それを最初から素案を決められると意見が言いにくくなると私は感じている。</p>
委員	<p>大田市のあり方に関することを議論する際に、委員各々の前提条件が異なる中で議論しても噛み合わないと思う。前提のところに根拠を作った方が議論もしやすくなると思う。</p>
縄課長	<p>各学校の面積や人数、国が示す標準面積などを次回お示ししたいと思う。</p> <p>ただ、この再編統合というものには、通学時間の問題やこれから子どもたちに身に付けさせたい能力、そのために必要な施設というものも当然出てくるので、面積＝児童、または児童＝面積になりにくいということも理解した上で議論していただきたい。次回お示しする資料は、新たな基準の一つを考えるきっかけとしての資料として考えていただきたい。</p>
森部長	<p>学校のあり方に関する現行計画を見直すということで地域を回って意見交換や、市民フォーラムを開催した。大森町ではたくさんの方が参集されたが、他の地域では数人しか来られないというのが現状である。私たちとしては、本当に学校が大事だという皆さんの想いを肌で感じたいので、説明会にたくさんの方に参加してもらいたい。</p> <p>先ほど議論が前に進まなくなると発言したのは、1人でも学校は残すべきだという意見が出てくると、統合に賛成の意見が出にくくなるという声があったからであり、少し言い過ぎた面があったとは思う。</p>
委員	<p>先ほどの部長の発言は、参加人数が少ない地域は駄目ということか。意見を持っていても事情があって参加できない方もおられるので、アンケートなど違う方法で意見を聞いてはどうか。そこで出た意見を一つの大きな検討材料にして議論することが大事だと思っている。</p>
委員長	<p>終了時間になったので、次回高山ブロックの小学校、第一中学校及びその校区、第二中学校及びその校区の3点について、可能な限り資料を付けてもらい、具体的な方向性案を示してもらいたいと思う。</p> <p>意見交換について温泉津地区及び仁摩地区の小・中学校について資料を提出していただいているが、時間がきていることから次回説明いただきたい。資料6が意見交換の資料になるので、委員の皆様には資料に目を通しておいてもらい、次回事務局の説明から入ることにしたい。</p>
<p>5. その他（説明：縄課長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●次回開催予定日の確認 <p>次回開催日は5月下旬を考えており、後日日程を調整し、別途お知らせさせていただきたい。</p> <p>6. 閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教育長挨拶 <p>事務局から説明を行ったが、様々な立場・価値観を持った皆さんのご意見を集約していくことは、非常に大きな覚悟が要るということを改めて感じた。</p>	

非常な勢いで子供の出生数が減っており、スピード感を持ってこの統合再編を進めていかないといけないと思っている。委員の意見にもあった教員不足についても、統合再編を進めていくことで打開策が見えるのではないか、また、老朽化の著しい校舎で学んでいる子どもたちの安全安心面も配慮して一刻も早くという思いを持っている。

今日いただいた意見については、追加資料を準備し、異なる価値観を一つにまとめるバランスとスピード感を並行して追い求めていきたい。

報告になるが、今年度大田小学校の建て替えに係る調査を始める。また、五十猛小学校・静間小学校・鳥井小学校の3校の統合を進めるために第1回目の統合準備協議会を立ち上げた。

本検討委員会の決定を受けて私たちも真摯に取り組んでいくので、委員の皆様におかれましても真摯な議論をいただくようお願いする。

以上をもって、第7回検討委員会を終了した。